



ニュースレター 2019年8月

インドネシアの水問題に取り組むAPPグループ

エイピーピー・ジャパン株式会社

東京都品川区東五反田 2-10-2

サステナビリティ・コーポレートコミュニケーション本部

山崎/加藤

Tel: 03-5795-0023

Email: sustainability@appj.co.jp

エイピーピー・ジャパン広報代理

株式会社コミコン 高橋

Tel: 03-6868-8271

appj@commi-con.com

深刻なインドネシアの水の問題

インドネシアは世界で4番目に人口が多い東南アジア最大の国ですが、国民2億6,700万人のうち1億人以上が清浄な水を使える環境がなく、さらに河川の80%は都市ゴミで汚染されています。また、人口増加や森林破壊に伴い、近年、インドネシアの水の問題は深刻さを増しています。

国連グローバル・コンパクト the CEO Water Mandate への参加



The CEO Water Mandate

水は人にとって貴重な資源です。水の問題の重要性と、問題解決のために企業が国際社会で果たすべき役割を認識し、APPグループは2011年に国連のグローバル・コンパクト the CEO Water Mandate に署名しました。The CEO Water Mandateは、国連グローバル・コンパクトの協力のもと、2007年にスイスで立ち上げられた水の持続可能性に関する課題に取り組む国際的なプラットフォームです。

APPはインドネシアにおけるきれいな飲料水の確保と公衆衛生の改善の必要性から、Indonesia Water Mandate working Groupに参加し

ました。その後、APPは同グループの議長に選任され、水の問題の解決に率先して取り組んできています。ここでその活動事例の一端を紹介させていただきます。

APPグループ製紙工場での取り組み

製紙産業は森林資源と水を大量に必要とする産業です。実際、1トンの紙を作るのに、約50-60トンの水を必要とします。このため、APPグループの各製紙工場では、河川から取水して紙の生産に利用した排水を回収し、再利用するなどして節水に努めています。使用後の水は製紙工程で生じる汚濁物質を含んでいるため、高度な排水処理技術で汚濁物質が除去されます。こうしてきれいになった水を、製紙工程で再利用しているのです。また、排水処理の過程で発生するスラッジ（汚泥）も回収され、ボイラーなどでバイオマスエネルギー源として活用されています。

清浄な水を僻地に供給

APPグループの製紙会社のひとつであるインダ・キアット社セラン工場（ジャワ島バンテン州セラン県）周辺では、清浄な水の確保が困難なため、同社

の浄水設備で処理された清浄な水を地域に供給する社会貢献活動が実施されています。



また、近隣のカジャウィハムレット村やワリクソン村では、同社が共同井戸を設置したことにより、清浄な水を利用できるようになりました。これらの村では、かつては清浄な水を使うことができず、入浴や洗濯だけでなく、調理や飲料水にも付近の河川の水を使ってきましたが、水質は悪く、問題となっていました。

インダ・キアット社は地域の要望に応え、水道工事業者と協力して地域の共同井戸を掘り、住民に清浄な水を使ってもらっています。この井戸は2012年に掘削されたものですが、現在も引き続き使用されており、村の寺院の近くにあることから、イスラム教徒が身を清める際にも使われています。現在、この共同井戸は地域住民によって維持・管理されています。各世帯は年額1万ルピア（約76円）を支払って

おり、そして集められた資金は設備の修繕や維持に使われています。

Habitat for Humanity Indonesia との協力事業



Habitat for Humanity は、「だれもがきちんとした場所で暮らせる世界」の実現を目指す国際 NGO であり、APP は 2010 年から貧困地域での住宅の建設や衛生問題の改善に共同で取り組んでいます。

APP グループのインダ・キアット社は Habitat for Humanity Indonesia と協力して井戸を掘削するなど、清浄な水を供給する事業を行っており、村落の家にトイレや下水設備を導入したり、住民に衛生習慣を身につけてもらうための啓蒙活動を実施したりしています。また、水田灌漑用の水を確保するために、セラン県の複数の集落に 36 基の給水ポンプを提供しました。その結果、作物の収穫量は質量ともに向上し、住民の生活水準が向上しました。こうした支援事業が大規模に実施されることにより、長期的には貧困率を 6-8% まで削減するという政府目標の達成につながると期待されています。

世界「水の日」のセミナーを国連機関と共同で開催

2019 年 4 月 22 日、APP は世界「水の日」を記念して、インドネシア・グローバル・コンパクト・ネットワーク (Indonesia Global Compact Network/IGCN) とジャカルタのユネスコ代表部と共同で、「誰一人取り残さない」をテーマとするセミナーを開催し

ました。このセミナーは世界で重要な課題となっている「清浄水の利用」に焦点を当てたものでした。IGCN は現在、地中に垂直に伸びるバイオポアという筒状の穴の設置に積極的に取り組んでいます。これは土壌に水を浸透させる方法で、土壌の保水力を高めると共に、地上で溢れた水を土壌に吸収させる効果があります。

2018 年、APP が主導している Indonesia Water Mandate 作業部会は、洪水の影響を受けやすい景観地域に 95 万本のバイオポアを造成しました。

バリ島での成功事例

バリ島はジャカルタ港から高速船で 45 分の小さな島で、観光地としても知られています。APP はバリ島における水の利用環境と水質に関するプロジェクトを 2016 年に開始しました。バリ島の人々に貯水技術を伝授するとともに、水や廃棄物の管理、汚水処理に関する研修などを行ってきました。



このプロジェクトによって、バリ島の人々の生活水準は著しく向上し、島を訪れる観光客の水の利用方法は改善され、ゴミの削減に対する理解も深まりました。この成功事例は「小さな島における水の安全性と持続可能な生活に対する意識啓発」というユネスコの新事業に発展しています。バリ島でのこうした成功事例に続き、APP とベランタラ基金はベルバック・センブラン地区で、

水の確保と公衆衛生に関する取り組みを開始しています。同地区にあるスンサン村では 2 機の浄水設備が導入され、320 世帯に飲料水を供給しているほか、野外で排泄行為をさせないために屋外トイレ 100 基を設置しました。

SDGs の達成に貢献

インドネシアでは、水問題によって SDGs の達成がむずかしくなっています。上水道設備導入の遅れから水道水は飲料として使用できず、下水道も十分に整備されていないのが現状です。こうした複合的で困難な課題を克服するには複数のステークホルダーと協力した取り組みが必要であり、APP は国連グローバル・コンパクト行動部会のメンバーとともに 2011 年から活動を続けています。



APP は自社工場の周辺にある地域コミュニティが清浄な水を利用できるようにするとともに、衛生状態を改善するために住民に対して衛生教育を行うなど、持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals/SDGs) の 3 番目と 6 番目の目標である「すべての人に健康と福祉を」と「安全な水とトイレを世界中に」の達成に貢献しています。APP は責任ある企業として、国連の the CEO Water Mandate に参加している他の企業や NGO と共に、これからも水問題の解決に取り組んでまいります。